

## 61期 小島強さんについて ～「私の消防見聞体験記」を読んで～

事務局 25期 前田 直人

### 携帯電話とPCに突然 61期小島強さんから連絡、身体障害を知る

2021年8月18日 私の携帯電話とPCに突然 61期小島強さんから連絡がありました。メールは大人びた文章でした。

私が感じていた小島さんの印象は、母校の卒業式に参列していた私に消防署に知っている人いないかと突然親しげに気楽に尋ねられた事でした。又、在学中にも関わらず「北辰会に入りたい」と何度も言って来られました。何だ！この子は。多少足に障害を持っておられる事は分かっていました。軽い知的障害があるのかなという認識でした。この本を読んで、小島さんは先天性脳性小児麻痺の後遺症で、身体障害五級・知的障害B2の2つの障害をもっておられることを知りました。

最後の出会いは彼の卒業近くであったと思います。私が「消防署に就職出来ますか」と尋ねると、消防署に入る為に「障害者枠」を作りたいと言っておられました。その時に携帯電話とメールアドレスを交換しました。ハンドルネームが「ポチ」！ 消防マニアなのに何で消防に関わるものではないのかと疑問に思いました。

彼の卒業後、初期の間は北辰会報が届いていたと思いますが、北辰会も会報受取者を整理する事となり、その段階で会報も届かなくなりました。私の中で彼の存在は記憶に残る人になっていました。最近、彼はインターネットや周りの人から北辰会の情報を掴んでいたと思われる。私へ連絡が来たのでした。

### 消防への強い関心と知識、著名人と消防行事へのアプローチ

本には彼の幼少期から20歳過ぎまでの生活と、消防との関わりと学校生活、就職活動について書かれています。無論、北野高校定時制在学中の記述もあります。ほぼ一気に読むことが出来ました。

彼は文章を書くこと、発表することが好きであると文中で言っていました。私には想像出来なかった事です。かれの発表は全て「消防」のようでした。

この本を読んだ一番の感想は、物心の付いた頃より彼は自分の好きな消防を中心に消防署長、消防局長、磯村大阪市長などの著名人各氏の懐に飛び込む事、かれがそれらの人に面会を求める事に周りの人は多少手を焼いていた様子書かれています。小島さんらしいと思いました。

また、自転車で東大阪市三島の大阪市消防学校へ「青少年消防技術公開講座」の受講のため、多少不自由な身体で、自転車を漕ぎ参加しています。15kmを2時間半位かかっているでしょう。前日は興奮して寝られなかったらしい。また、初日に体調を崩し実技にあまり参加出来なかったらしいです。など書かれています。これら無論消防に関する卓越した知識と情熱は常人を遥かに越えています。だからそれらに人は小島さんの存在が胸に響き交流が出来たのだと思います。

### 卒業後1年で書かれた！！

彼はスラスラと白紙に文章が書けるようです。好きなことへの執着、その記憶が周りの人より深いようです。この本も20歳過ぎに書かれています。各エッセーも正確のようです。昔の小島さん知っている私には信じられない事でした。

これらは彼の担任であった山上俊夫先生の寄稿文により知ることが出来ます。先生は小島さんの人間像を正確に把握し指導された様子を伺い知ることが出来ます。また、生徒自治会副会長の福田由美さんの文には優しい気遣いで心温まりました。

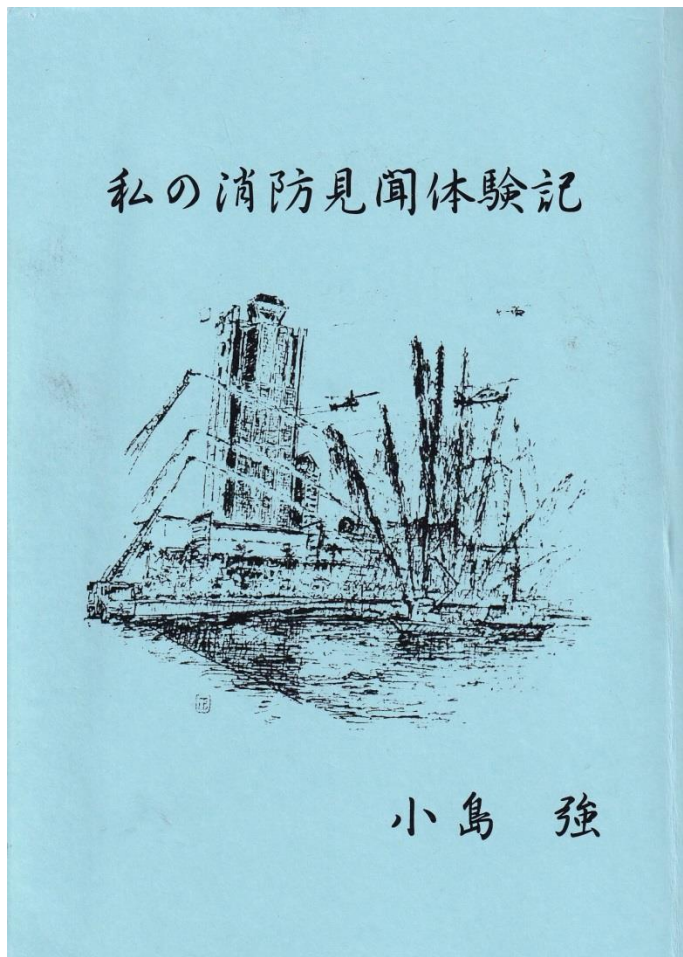
そして特筆すべきは全ての文章が感謝の念で「お礼申し上げます」と綴られていることです。更に、『身体障害者にはそれぞれに「使命」があり、「その人」にしか生み出すことのできない力が与えられている』と述べられていることです。この信念を持って身体障害者を対象とした消防採用枠の創設を希望されています。

### 保護される立場から自立（自律）へ、消防ファンから卒業へ ～あとがきから

あとがきで小島さんの決意、皆様へのメッセージを読み感銘を受けました。彼は平成 15 年 4 月から、大阪市市民局に障害者枠の職員として就職して働き始め、大阪府に障害者枠での職員を経て、2014 年から障害者福祉サービス事業で働かれています。現在、個人一人の住居で生活されています。

彼の消防熱は保育園時代の消防訓練、それからの消防署の訪問と優しい職員の対応に消防への火が付いたようです。あとがきで彼は平成 15（2003）年 3 月 7 日消防記念日に「消防ファン」を卒業と記述しています。その年の 4 月 1 日に大阪市に就職し、同年 9 月 20 日に本が出版されました。

その後、現在迄の 18 年間彼には色々な出来事があったと思いますが、山上先生、福田さん、御本のあとがきに沿った歩みがあったと思います。健常者と障害者が共に助け合い、認め合う社会を作り上げることが大事だと訴えられています。その運動に大きく関わる能力と持続性があると信じています。就職してから現在までの 18 年間の奮闘記が待たれます。



小島 強 著  
「私の消防見聞体験記」  
B6 版 171 頁